令和４年度 事業報告
【 全　体 】

令和 4 年度は、過去 3 年間の新型コロナウィルス感染症が蔓延する状況の中で、最も感染者数の多い厳しい一年となりました。特に 7 月からの第 7 波では、国全体で一日に約 4 万人もの新規感染者が出ており、当法人もその影響を強く受け、特養とグループホームで立て続けにクラスターが発生してしまいました。

特養では実に、入居者の約 50%、職員の約 70%が感染するという大規模なものになりました。また、感染してもなかなか入院ができなかったため、多くの困難と向き合うことになりました。幸い、新型コロナウィルスの感染が直接的な死因となることはなかったものの、間接的な死因となる事例が複数発生し、たいへん悲しく、悔しい思いをいたしました。

デイサービスにおいても、新型コロナの影響および大雪での休業も相まって、業績に影響を及ぼしました。

このような状況ではありましたが、ご利用者様にとっての‘かけがえのない日常’を守り、ご利用者様が「最期まで生きてて良かった」と思っていただけるよう、常にやれる方法を考え実行する一年となりました。

＜数値目標＞

1. 実稼働率 98%を目指す（特養・ＧＨ）
2. 職員定着率 100%を目指す
3. １日１件見過ごしているヒヤリハットに気づく

＜報告＞

1. 各部門での報告とします
2. 目標は達成できませんでしたが、令和 3 年度より 3 部門で改善しました。

		令和 4 年度	令和 3 年度
特養	:	84.62%	(73.53%)
ＧＨ	:	93.33%	(78.95%)
看多機	:	66.67%	(73.68%)
デイ	:	87.50%	(70.00%)

※ 看多機は、ナースの退職が相次ぎ、令和 3 年度より悪くなりました。

3. 目標設定が高すぎたようで、目標数値と大きく乖離してしまいました。

特養	：	44 件
ＧＨ	：	13 県
看多機	：	22 件
デイ	：	17 件

＜行動目標＞

1. コロナ禍だからとあきらめない（コロナに負けない）
2. コロナ禍で楽しみが半減しているからこそ、プラスの楽しさにチャレンジする
3. ご利用者様の笑顔のためサービスの質を向上させる
4. 事業の継続と【安心】

＜報告＞

1. コロナ禍だからとあきらめず、ご利用者様が最期まで希望をもって生きていただけるよう取り組みました
   ① 花見、バーベキュー、柿狩り、芥川高校太鼓部の慰問演奏会等イベントは概ね計画通り実施しました（別紙参照）
   ② クラスターが発生した２ヶ月間以外は、一定の制限化で面会を継続しました
   ③ 看取りだからとあきらめることなく、最期までご利用者様の意思を尊重し、自分のやりたいことができるよう支援しました。ただ、クラスターの最中とその後の立て直し期間中は、ほとんど対応できませんでした
2. ご利用者様が、プラスの楽しさを感じていただけるよう新たな取り組みにチャレンジし続けました
   ① 誕生日担当を明確にし、コロナ禍でも時期を見計らって、ご家族で一緒にケーキを食べていただくなど特別な日としての誕生日会の開催に取り組みました
   ② コロナ禍やご本人の体力の問題で、遠方への外出の機会はなかなか確保ができませんでしたが、体力のある方については自宅に帰っていただくなどに取り組みました
   ③ これまでになかったロバのパン屋さん、駄菓子屋さん、トールペイント、本格コース料理の提供など、様々な取り組みを進めました

3. ケアカンファレンスや研修などを通して、サービスの質の向上に取り組みました。

① チームワーク向上のため、職員会議への出席率の向上を図り、クレドを徹底するなど様々な取り組みを講じました

② サービスの標準化に取り組むため、業務マニュアルの整備を進めるとともに、会議やケアカンファレンスでサービスの標準化に取り組みました

③ 平常時の効率的な感染対策は講じることができましたが、発生時の感染対策が甘くクラスターを大規模なものにしてしまいました

4. 補助金を獲得することで実質的な黒字化となりましたが、安心できる状況にはありません。

① 新型コロナの影響で思うような結果を残せませんでした

② 新型コロナ対策に追われ、進められませんでした

③ 人件費並びに光熱費等物価高騰のため、大幅に経費が増えてしまいました